

矢部清流学園

学校地域家庭をつなぐ教育とは

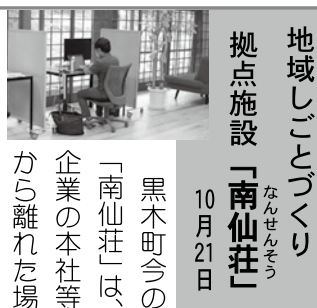
〈総務文教常任委員会〉

10月21日

矢部清流学園は、平成28年に矢部小・矢部中PTA合同三役会が矢部地区に将来も学校を残すための話し合いを始め、令和2年4月開校しました。

「矢部のきれいな川のように澄んだ心もち、ふるさと矢部を大切に育てる子どもたちに育ち、大きく羽ばたいてほしい」という願いが込められた校名の由来を伺えば、矢部の人々の想いが強く胸に響いてきます。

また、中体連も人数が揃わないので全員参加し、たとえ走るが遅い子どもも久留米市の陸上競技場で走る経験もしていると



地域しごとづくり
拠点施設「南仙荘」
なんせんそう
10月21日

いろいろな人が集いつながることで、新しい「もの・こと」を生み出す場所として期待されます。

黒木町今の「南仙荘」は、企業の本社等から離れた場所

「南仙荘」は、企業の本社等から離れた場所

調査を終えて

郷の特徴を生かし、学校と地域と家庭が知恵と愛情を全ての子どもに注ぎ育てていく、これこそ「コミュニティスクール」の代表と言えるでしょう。

(大坪 久美子)

児童の安全・安心を

学童保育所を調査

〈厚生常任委員会〉

10月21日

委員会では所管する行政事務を随時調査しています。今回は、10月21日に黒木町の木屋、黒木、あゆみ、黒木西の各学童保育所を訪問し現状について説明を受けました。

木屋、黒木、黒木西学童保育所は、以降19時まで延長保育となりません。

【木屋】平成14年3月に建設され現在に至っています。10月1日現在30人（定員50人）が利用しています。

【黒木】当初、用務員宿舎を利

用していましたが手狭となり、平成29年3月に増築し現在に至っています。10月1日現在44人（定員57人）が利用しています。

【あゆみ】平成23年度から学童保育所を開設、平成25年12月の保育園建設時から



学童保育所ヒアリング

園内の一部を学童保育所に使用されています。10月1日現在26人（定員24人）が利用しています。

【黒木西】

黒木西小学校の空き教室2部屋を利用して、定員78人で開設されています。10月1日現在35人が利用しています。

調査を終えて

「〇ナ禍の中、各施設とも熱意と愛情あふれる対応で児童の安全・安心の確保に努められています。

児童保育の環境は格差があつてはならないし、施設ごとに多くの課題もあります。今後適切に調査を進め、課題解決に注力して参ります。

(田中 栄一)

学校・地域・家庭が一体となった

矢部清流学園

『総がかりの教育』

- 豊かな自然環境
- 忍耐力・しんぼう強さ
- 校内および地域内での経験値の高さ
- 安心に満たされている子どもの優しさ
- 極小の個別指導
⇒質の高い教育
- 地域の人々の見守り・優しさ・「手出し」

「焚火の森」キャンプ場つて

どんな施設？

〈建設経済常任委員会〉

12月4日

シャワー、エアコン、焚火台が設置されます。
 ●コテージは2棟で、6人用の建物です。ベッド、キッチン、ユニットバス、エアコン、薪ストーブ、焚火台を設置します。

この拠点施設として再整備されるものです。

黒木町笠原地区には、「きのこ村」というキャンプ場がありましたが、平成24年の九州北部豪雨により流失してしまいました。

この災害からの復旧にあたり、地元から強い要望もあり、復旧のシンボルとして、地域と都市との交流、多世代の交流、森林環境の教育の場とし

ア、お茶バー、販売エリア、トイレ、事務室等のバックヤードを予定しています。キャンプ場のコンセプトは「焚火」なので、薪ストーブ、薪セラーが設置されます。

この事業費は約5億円で、おもちゃハウス兼母屋、キャビン・コテージ、サニタリー棟、機械

施設、電気設備の5工区に分かれて建設中です。

●おもちゃハウス兼母屋は、静かな遊びのスペースで、木のおもちゃエリア、お茶バー、販売エリア、トイレ、事務室等のバックヤードを予定しています。



建設中のキャンプ施設を前に説明を受ける

●キャビンは3棟で、4人用の建物です。ベッド、キッチン、トイレ、

(松崎 辰義)

広川町

住民一人一人の健康は 私たちが守る!!

〈厚生常任委員会研修報告〉

11月18日

特定健診受診率向上は、当市の大きな課題ですが、広川町の令和元年度受診率が71%であることを知り、調査しました。

健康係長から、資料を基に分かりやすい説明をいただく中で、熱意と本気度が伝わった有意義な研修でした。

熱意と根気で受診勧奨！

平成27年から個人カルテ記録表、受診勧奨時のやり取りなど住民一人一人の健康情報が記入されたみが始められています。重要な資料となっています。特に、特定健

診者は国保データの情報に基づき、対象者全員のカルテを作成されていることに意義があります。

受診勧奨は、三つの地区担当チームにより、電話や訪問により、一人一人に個人カルテ

健診受診率を上げる取り組みとは

一人に個人カルテを活用して丁寧に説明されています。中には玄關さえ開けてくれなかった住民も、担当者の熱意と根気に負け、次第に顔なじみになり、受診につながる場合もあるようです。

血管の健康状態が分かる

特定健診のきっかけ作りとして、令和元年7月に全国的にも数少ない血管内皮機能検査機器が導入されています。血管状態を把握することができ、大変有効な検査であり、評価も高く多くの住民に利用されています。

八女市はどう生かす

何よりも「住民一人一人の健康を一緒に守る」が、原点となっています。手段として、より多くの住民が特定健診を受診するための徹底した動機づけを行い、その結果、生活習慣病の医療費削減の実現を使命として取り組んでいることが強く印象に残りました。

(高橋 信広)

